

## 令和4年度第2回兵庫県立図書館協議会 会議録

### 1 日時及び場所

令和5年3月9日（木） 10:00～12:00

### 2 出席者

協議会委員 角本会長 藤井副会長 太田委員 岡田委員 川石委員 久野委員  
齋藤委員 崎野委員

教委事務局 社会教育課金田副課長 三木主任指導主事

県立図書館 村上館長 小藤次長  
小野山館長補佐兼総務課長 谷口利用サービス課長 前川ふるさと・資料課長

### 3 議事

#### (1) 県立図書館運営状況について

館長補佐より、「兵庫県立図書館運営状況」（資料1）、次長より「令和5年度県立図書館の取組」（資料2）に基づいて説明。

(委員) 資料1の3頁、2利用状況について、R5年1月末は4月～1月の数字で良いか。レファレンス件数は普通4,000件程度だが5,000件に増えているのがどのような理由があるのか。

(図書館) 13～14年ほど前に比べ、レファレンスが大幅に少なくなっているとの課題認識から、増加に努めました。

(委員) 具体的にはどのような取組み等を行ってきたのか？

(図書館) レファレンスそのものを知らない人があるのではないかと、主に広報に努めました。また、カウント漏れがないようにしています。

(委員) 県立図書館のレファレンスは優秀。もっと知らせてほしい。

(委員) インターネットでの利用登録について、もっと周知が必要。読書離れしている子どもが利用できる機会を与え、興味をもってもらえるようにする。

(委員) 資料1の3頁、協力貸出の内訳について、その他の増加は何か。

(図書館) これまでにはなかった自治研修所への行政資料の貸出を行いました。こちらから提案して始まりました。

(委員) 企業から申込があったのかと思った。

(委員) すごく良い取組。県職員へ向けてこちらから提案するのが良い。

(委員) 兵庫県民がまんべんなく利用できれば良い。県民全体に周知できるようなPRを行ってほしい。

(委員) 電子書籍の選書基準は。

(図書館) 紙の収集方針と同様です。市町立が収集しにくいような、学校が利用していただけるようなものを選書しています。

(委員) 紙も電子も購入するのか。

(図書館) 貸出しできないものでも借りることができるように、同じものも電子で購入していきます。

(委員) 電子書籍の導入を1年早めているのが素晴らしい。予算は国の補正とのことだが、来年度以降はどうなっているのか。いきなり5,000コンテンツ超えはすごいが、目標はあるのか。アプリの導入も1月予定なのか。

(図書館) 今年度は全額、国の交付金です。次年度以降は県の予算になりますが、資料購入費の中で紙の図書と電子書籍を購入するので、その割合をどうするかは検討中です。電子書籍は紙の図書より2～3倍高額なため、国や県へ予算の追加要求を積極的に行っていきたいと考えています。目標数字は決まっていません。アプリまで手が回っておらず、今後検討してまいります。

(委員) 県と市町は違う。県立は県域も広く市町との役割分担が必要。県立だからこそできる郷

土資料の収集や研修等に、敬意を表したい。県立図書館としては、地域の図書館の郷土資料の管理や郷土資料のデジタル化も重要であるが、紙資料の収集も大事。どのようにデジタル推進されるのか。

- (図書館) 県立図書館は市町立のための図書館という位置付けであり、平成 13 年度から個人の直接貸出を開始しています。市町立との位置付けの違いは常に意識しており、県全体の郷土資料の充実、遠隔地サービスに力を入れていく必要があると考えています。電子書籍は基本遠隔利用であり、郷土資料は電子化、アーカイブも順次進めています。GIGA スクール構想も進められますので、学校で使用していただけるようなものも電子化していきます。資料の貸出サービスの充実や、紙資料の保存も行っていきます。
- (委員) 人手不足で、スマホ1つで求職している時代となり、アプリは必要かもしれない。利用者が何を目的で来館されたのか、データはあるか。出前講座は素晴らしい。次世代へ分かってもらうために必須なので、継続してほしい。
- (図書館) 講座はアンケートを実施していますが、館全体のアンケートは出来ていません。今後期間を定めて実施し、次へ生かせるようにしていきます。
- (図書館) 地元新聞に取り上げてもらうと反響が大きいように思います。
- (委員) 今の時代は新聞を取られない方もいます。
- (図書館) 周知が届いていないため、工夫します。
- (委員) フリーランスで仕事をいただく時、今後の方針に役立つため必ずどこで知ったか聞いています。年2回でもいいので、アンケートを取るのはいい。
- (委員) 資料1の11頁、学校サポート講座について、本来、学校司書、司書教諭がする仕事ではないか。県立図書館から専任の学校司書を配置するようはたらきかけてもらいたい。また、資料2のボランティア活動の拡大について、新規としてカウンター業務が加わっているが、こちらは重要な仕事のため本来は正規の職員がつくべきであると思う。貸出、返却等プライバシーにも関わり、色々な問題があるので、慎重になった方がよい。活動の拡大は素晴らしい。デジタル化へのお手伝いをボランティアにさせていただいたらどうか。住民やボランティアに参加してもらうことで活性化される。
- (図書館) 司書の資格をもっておられるボランティアの方や図書館での勤務経験のあるボランティアの方に貸出返却、マイクロのご案内のご協力をお願いすることを考えていました。明石市立図書館でされているように個人情報保護のためボランティアの方から一筆いただくことを考えていましたが、おっしゃるように慎重にします。デジタル化のお手伝いはボランティア活動に加えたいと思います。
- (委員) 県は市町のモデル。市町がやっているからではなく、県立図書館として姿勢を示すべき。
- (図書館) 県立図書館でボランティアをして楽しかったと思ってもらえる活動をボランティアの方から提案していただく機会を設けています。プライバシー等守るべきものは守り、職員のサポートが重要であると考えています。学校司書の配置については県教育委員会に申し伝えます。
- (委員) マイナンバーが入れば余計プライバシーが危ないのではないかと。
- (図書館) カードを職員が預かることはないが、誤りがないよう慎重に取り扱います。
- (委員) ボランティアのアンケートにカウンター業務が記載されていたが、司書資格を持っているからなのか。
- (図書館) 資格をもっているかの確認はしておらず、アンケートの形で希望を確認しています。
- (委員) 業務内容の提案は県の方からなのか、ボランティアの方からなのか。
- (図書館) 県の方から提案させていただきました。ボランティアの方にやりがいを感じていただいたり、活動の範囲を広げていただければと思っています。
- (委員) 企画運営の案については是非は県が判断するのか。一緒にするのか。
- (図書館) 4月のボランティア説明会でお話させていただき、一緒に進めてまいります。ボランティアの方に任せきりではありません。
- (委員) 報酬は支給されるのか。
- (図書館) 報酬の支給はありません。
- (委員) 返却本を書庫に戻す作業は重要でやりがいを感じるが、すぐ終わるので時間が余ってしまうとも感じている。ボランティア側からの提案はしたことがない。
- (委員) 図書館はどのように運営していくのか、1つの正解はない。県が方針を決めているので私からは何も言うことはないが、神戸市は中央図書館のみ直営、他は指定管理となってい

- る。個人情報に触れるところは民間と契約しており、ボランティアではない。
- (委員) 今のご意見を参考に練り直されると思うので、次回までに報告をお願いしたい。
- (図書館) ボランティアからアイデアを出してもらい、生かせるような場を作ります。こちらからはあくまできっかけを作りたいと考えています。
- (委員) 神戸はボランティアの住民参加の図書館。運営に入っただき、それぞれのノウハウを活かした活動の場を提供できれば良いと思う。
- (委員) 資料1の23頁、24頁の新聞での広報について、令和4年度は令和3年度より増えている。努力されていると思うので、是非続けてほしい。放送もされているのは良いこと。資料2の6頁の行政との連携について、県民サービスとして良いと思う。7頁の図書館職員の資質向上は必須だと思う。市町立図書館への支援の向上につながり、県立図書館として必要である。資料1の16頁、毎年夏祭りを行っているのが良い。大変だと思うが、出来るだけ県民が参加しやすいようにたとえば土日で行う等、2日間の開催で検討していただきたい。資料2の2頁電子化のなかでコンテンツ数の充実とあるが、具体的にはどうするのか。4頁の学校サポート講座に電子書籍の実践講座とあるが、県立図書館で行うのか、出前講座なのか。
- (図書館) コンテンツ数の充実とは、郷土資料のデジタル化する数を増加していくという意味です。電子書籍の実践講座については、出前講座のメニューの1つに加える予定です。出向く方が効率的だと思うので、基本、出前講座を予定していますが、図書館へ来られる場合も想定しています。
- (委員) 出前講座であれば、広報しないといけない。社会教育課、高校教育課、義務教育課等とも連携するべき。学校から要望があれば出張するのか。
- (図書館) そのように考えています。
- (委員) 学校サポート講座と出前講座は別なのか。R4は2回、R5は5回だが、もう少し目標数を増やせないか。参考資料として鳥取県立図書館の資料を提供する。各県と交流をし、参考にしていただきたい。市町と県の役割は違うため、県同士情報交換を行うのが良い。
- (図書館) 夏祭りは土日は職員体制が難しいため、当面はこれまでの形で行います。意見として頂戴させていただきます。
- (委員) 実行委員会方式もあるので参考にしてほしい。
- (委員) 利用者としてだが、展示を見ている人の数が少ない。とても良い展示をされているのに非常にもったいない。沢山の人の見てもらえるようにデジタルで何か残せないか。折角作っているのに、生かせる方法を考えてほしい。
- (委員) 一言メモのようなものを置いてはどうか。
- (委員) 展示はとても手間がかかっている。TwitterやFacebookから見られるようにしてはどうか。将来的にYouTube配信をして来館しなくても見られるような仕組みを作ってはどうか。折角作っているのにもったいない。
- (委員) インターシップや実習生による展示もあると思う。大学の司書課程で教えている学生は展示にとっても興味がある。住民、ボランティアを巻き込んで展示してみるのはいかがでしょうか。参加した学生や住民、こども等がSNSで発信してくれるだろう。
- (図書館) もう少し踏み込んだPRも検討させていただきます。
- (委員) ビブリオバトルについて、今回は生涯学習センターでされているのが良い。視線を変えて色々なことに取り組んでほしい。
- (委員) 全ては難しいが、オンラインができる講座を増やすのはどうか。講師の了承が必要だが、検討してほしい。
- (委員) 機関誌「あそぼう」の112号に図書館だよりが載っている。ぜひ読んでいただきたい。HPのQRコードしか載っていないので、TwitterやFacebookのQRコードも是非。
- (委員) オンラインの操作が困難な高齢者の方へのサービスについて、介護施設への貸出等を今後考えてほしい。